

高校存続と高校教育の方向性は

抜本的に方向転換する時期

【熊野茂夫議員】

道立高校の適正配置化により、統廃合が進められ、福島商業高校では函館商業高校のキャンパス校指定、講座の開設、入学時補助のほか、資格取得・通学交通費・部活動遠征費・運転免許取得などの補助施策が講じられてきた。

海外研修（修学旅行）計画とその補助も検討されている。

10年以上に及ぶ存続対策について検証し、当町の高校教育の方向性について総合的に検討する時期と考えるが如何か？



熊野 茂夫 議員

【前田勝広教育長】

存続対策については、「教育委員会の権限に属する事務の点検・評価」・「存続検討委員会」において、一定の評価をいただき、現行のまま進めるようご意見をいただいている。

【鳴海青春町長】

他市町村に比べて手厚い対策を講じているが、町内の出生数や小中学校の在校生の状況から、今後は大変厳しいと判断しており、存続対策の在り方を抜本的に方向転換する時期に來ていると考えている。

広域連携や町立、新たな学科の創設など新たな議論を始める必要がある、存続検討委員会の中で議論をしてまいりたい。

中学部活動に小学6年生の参加を

受入れする方向で検討を支援

【木村 隆議員】

中学校部活動は、授業同様の学校教育の大きな役割を果たしている。

2カ月ほど前に、小学校6年生が中学校の部活動に参加していた。習い事やスポーツクラブが少なく、中学生生活に早く馴染む一助になると思っていたが、現在、参加しなくなっている。

中学校、顧問が許可すれば、小学6年生の受け入れは問題ないと思うが、教育長の見解を伺う。

部活動見直し検討を以前答弁していたが、新たな部活の創設など選択肢を増やすことも含めて状況をお知らせ願いたい。



木村 隆 議員

【前田勝広教育長】

部活動の設置や運営は校長の権限だが、小学生の参加には「怪我」・「送迎」・「大勢が参加した場合の対応」等について、一定のルールを作り検討している状況であり、経緯を見守りたい。

部活動の見直しについては、生徒数が減少していく見込みの中で、体育系部活動はチーム編成ができない状況も想定されるが、軟式野球部が松前中学との合同チームで大きな成果を上げたことは、良い先例であり、必要に応じた支援をしていきたい。

新たな部活動の創設は、現行の部活指導に全ての一般教諭が携わっている現状と生徒数から判断すると厳しい状況にあると考えている。



川村 明雄 議員

岩部地区の再開発を 魅力を活用、町外に発信

【川村明雄議員】

来年度、まちづくり工房による岩部地区の観光事業がスタートするが、次の点について町長の考え方を伺う。

- ① 秘境としての魅力度アップの方向性
- ② 旧岩部小中学校解体と土地の有効活用
- ③ 展望台及び遊歩道の整備
- ④ 岩部から耳岩、タタミ岩付近までの山道整備
- ⑤ 空き家の有効活用
- ⑥ 自然観察学習への期待
- ⑦ 海の家再開発、宿泊可能による各種体験の拡大
- ⑧ 岩部水道水の経済効果の視点考察
- ⑨ カレンダーやポストカードの発行、土産品開発

【鳴海青春町長】

- ① 海路でしか行けない自然が魅力、クルージング事業を通じて発信していく。
- ② 解体は第5次総合計画後期計画で予定、今後活用等について判断したい。
- ③ 十数年利用されておらず活用は難しい。
- ④ ①で説明。
- ⑤ 老朽化で活用は難しい。
- ⑥ 有効なツールと考えており、今後の状況を見極めながら関係団体と協議を進めたい。
- ⑦ 海の家は老朽化により今年度解体予定、再開発は困難。
- ⑧ 原水は山腹を流れる表流水のため、殺菌コストが高く事業化は困難。
- ⑨ 現在、地方創生推進交付金を活用し、カレンダー等を作成。お土産品として飲料水の開発を行っている。

駅伝競走大会の運営改革を 改革に向けた取組を進める

【川村明雄議員】

南北駅伝競走大会は、毎年五百人ほどの参加者を得て盛況だが、信頼度の高い大会運営を継続するため、思い切った改革が必要。

かねてより改善の必要性が寄せられていたのは計時上の問題。

計時方式として、読み取り自動化計器（ICチップ方式）の導入により改善が顕著になる。遠方の小中学校チームが、早めに帰途についてもらうため表彰式までの時間短縮も可能になる。

大会運営は実行委員会方式だが、大会長は町長であり実質的な開催責任者とも言える。町長・教育長の考え方を伺う。

【鳴海青春町長】

駅伝競走大会の運営については、実行委員会で実施状況を踏まえた反省点や改善点を協議し、対応している。

運営をスムーズに行うため、計時や記録の集計などもシステム化し効率化を図りたいが、費用対効果の問題もある。実行委員会の中で意見をいただきながら、改革に向けた取り組みを進めたい。

【前田勝広教育長】

2つの方法を検討しているが、「ICチップ方式」は毎年多額の予算が必要となる。

「駅伝競走大会集計システム」は、選手名簿作成から記録集計、表彰状印刷までトータルに処理でき、比較的安価で、単年度支出で済む。

事務局としては、「集計システム方式」で効率化を図りたいと考えている。

ふるさと応援寄付金の検証と対応は

制度の積極的活用を検討する

【平沼昌平議員】

ふるさと応援寄付金は、平成18年度の制度開始時から、13年間で890件、26,741,222円の寄付をいただいているが、当町の実績を踏まえ、次の点について伺う。

- ① 毎年度の件数から見た寄付額の増減の検証。
- ② 返礼品に対する寄付者の声を検証し、地場産業の在り方に活かしているか。
- ③ 寄付金をもって行っている事業の検証と寄付者に対する成果報告。
- ④ 今後の対応と進め方について、当町をいかに寄付者に理解していただき応援していただくか。



平沼 昌平 議員

【鳴海青春町長】

① 町内外別集計、寄付者のリピート状況を分析している。

② アンケートは実施しているが、リピート率やブログ確認からは評価は高いと考えている。

③ 寄付者への成果報告は行っていないが、活用した事業は福島商業高校生徒への販売実習助成金であり、町外に向けての高校のPR活動効果により高校存続対策につながっている。

④ 寄付金は、子育てや教育、まちづくり・地域の活性化に活用するものと考えており、用途については、ホームページやふるさと会での情報発信、ふるさと納税ポータルサイトの活用も検討し取り組む必要があると考えている。

文書質問

横綱記念館・青函トンネル記念館の11月対策について

質問者：川村 明雄 議員

【質問】

今年の11月は暖冬気味で降雪は23日であったと思います。

現在両記念館は15日で閉館しておりますが、11月の対策として、月末まで開館、入館料を半額、勤労感謝の日は無料、翌年度の集客対策として旅行会社への招致提供（無料）期間とし、道の駅との連携で特産品等を安価に提供など、入館料を減額・無料にしても経済効果に繋がる対策を検討願いたくお伺いします。

【回答】

横綱記念館の冬期休館については、平成12年度に策定した「福島町財政健全化計画」による経費削減の一環として平成15年度から始めました。

両記念館とも11月16日から休館となり、一般入館者は受け付けてはおりませんが、青函トンネル記念館は、例年函館バスが運行する「冬の松前号モニターツアー」や日本旅行の渡島地域魅力体験ツアー、JRの歴史めぐり号などのモニター的な利用があります。横綱記念館については、展示物を保管庫に収蔵するものもあったため、これまではモニターツアーの受け入れは行いませんでしたが、本年からは、希望があればツアーの受け入れは可能となっております。

両記念館と、道の駅での物販については経営母体が異なり、連携した取り組みについての検討は行っておりません。

平成29年、30年の11月の1日当たりの平均利用者数は、両記念館とも20名程度となっており、連休もあり観光客の移動も見込めることから、11月末までの利用について検討してまいります。



横綱記念館